



Japan
Food
Research
Laboratories

試 験 報 告 書

第 109061888-001 号
2009年(平成21年)07月24日

依 頼 者 株式会社 ピュアソン
 株式会社 ユーケケミカル

検 体 本報告書中

表 題 ウイルス不活化試験

2009年(平成21年)06月12日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター



東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

ウイルス不活化試験

1 依頼者

株式会社 ピュアソン

株式会社 ユーケケミカル

2 検 体

Pathocut

Gespa

ウィルプロテクト

弱酸性次亜塩素酸除菌水

Lot No.99SA-L002 80ppm

3 試験目的

検体のインフルエンザウイルスに対する不活化試験を行う。

4 試験概要

検体にインフルエンザウイルス浮遊液を添加，混合し，作用液とした。室温で作用させ，15，30及び60秒並びに3分後に作用液のウイルス感染価を測定した。

なお，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお，細胞維持培地で作用液を10倍に希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを予備試験により確認した。